

マルチパックも初めて対象に！ 第3回「お店に返そうキャンペーン」の結果は？

多摩市ごみ減量担当課長 松平和也

多摩市では、店頭回収の利用促進に向けて、8月11日(水)から「第3回お店に返そうキャンペーン」を展開しました。キャンペーンの内容は、紙パック・アルミつき紙パック・マルチパック(6缶パック)をそれぞれ30枚持ち込めば、エコ関連の景品と交換するというもの。交換品は、「ハローキティタンブラー」「東京ヴェルディ風呂敷」「電球型蛍光灯」を各1,000個用意しました。

今年が目玉は、ごみっと・SUN 79号に書いたように「(古紙に混ぜられず、燃やすごみとして出してもらっていた)マルチパックを紙のリサイクルルートに乗せられるか」という回収実験ですが、なかなか回収量が伸びず、8月末までで回収したのは70キログラム(約1,800枚)。ごみ減量の啓発紙「ACTA」を全戸配布したものの、原因を考えれば、周知期間が短かった事、これまで可燃ごみとしていたマルチパックを、資源として分別保管する習慣がなかった事…そして何より30枚というハードルが高すぎた事が考えられます。何せ、ビールを180本飲まなければ集まらないのですから、毎日6本飲んでも30日！大酒飲みの私でも結構きついですね。

しかしキャンペーン当日に、私が開店時に立ち会ったスーパーに2名の方が、マルチパック30枚を持参され、景品と交換していました。初めは嬉しい気持ちで一杯でしたが「どれだけ飲んだの〜？」という疑問も…。当日は、NHKの取材がありましたので、持参された方のインタビューは、テレビ放映でお楽しみください。マルチパックのリサイクル工程の撮影が終われば、番組として放映予定です。

キャンペーンは好評のうちに、8月末でほぼ終了しましたが、景品で一番人気は何と「電球型蛍光灯」でした。白熱球の生産が終了したことや、省エネへの関心が高まっているのでしょうか、各店舗に状況を伺ったところ、紙パックを330枚持参されて、電球を11個交換された方もいたとの事。日付を見ると1年前からためていた様子で、市民の力に驚かされました。やはり、キャンペーンを恒例とすることは有効ですし、来年に向けて、既に市民の家庭ではマルチパックの備蓄が始まっているかもしれません！

キャンペーン終了後は、各スーパーの店頭には置かれるマルチパック回収ボックスですが、1枚、2枚でも構わないので、マルチパックはお店に返すというライフスタイルが習慣になっていただければ幸いです。しかし、多摩市という1自治体だけで取り組んだのでは、リサイクルの採算が取れないのが回収業者やメーカーの悩みです。ぜひ多くの自治体で回収していただけるように、行政関係者並びに消費者の方々の今後の取り組みに期待したいと思います。

